

第173回 関西広域連合委員会

日時：令和6年12月21日（土）

場所：NCB会館 2階 淀の間

開会 16時10分

○三日月広域連合長 今年も残すところあと10日となりました。能登震災で始まった今年を振り返りながら、明くる年もどうぞよろしくお願いいたします。

また、関西広域連合は14年たって15年目に入りましたので、奈良県の全部参加も受けて、また更なる進化をしていきたいと思います。

それでは、第173回関西広域連合委員会を開催いたします。

議題に沿って進めます。

まず初めに、「大阪・関西万博 関西パビリオンの取組状況」を議題といたします。こちらは、大阪・関西万博 関西パビリオン企画委員会として開催いたしますので、福井県、三重県からもオンラインで御参加いただきます。

関西パビリオンに係る経費について、本部事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局 資料1の2ページ目、別紙の1を御覧ください。関西パビリオンに係る経費についてでございます。

展示運営等を含めました関西パビリオンの建築費といたしましては、令和4年度から7年度までの4年間で、およそ18.6億円の経費を見込んでいたところでございます。これにつきましては、当初予定していなかった工事等が必要となったことから、追加の予算措置等をお願いするものでございます。

資料の赤枠で囲みました赤字部分の上から2つ目、3つ目でございますけれども、内装工事、外構工事につきまして、令和6年度補正予算及び令和7年度当初予算で合わせまして6,000万円ほどの追加分がございます。これにつきましては、令和4年度と5年度の予算の執行残、それから今年度予算の経費節減分を充当させていただくこ

ととしております。

次に、その下にあります予備費の3,000万円につきましては、令和7年度予算として各府県において負担金として予算計上をお願いするものでございます。

こうした追加の予算措置が必要となった理由といたしましては、まず工事費でございますけれども、会場の暑さ対策といたしまして、関西パビリオンの催事スペース等の空調設備を簡易なものから業務用のしっかりしたものに変更をいたしました。また、パビリオンの内部で仕様変更によります照明器具の設置、また敷地内のボーリング工事等で地中埋設物の処理等によりまして予定外の作業が生じたことが主な要因でございます。

次に、予備費でございますけれども、こちらは会期中に台風等で万が一建物が被災した場合など、緊急補修等に要する経費でございます。

本部事務局といたしましては、引き続き会期中の運営、また閉幕後の建物の解体撤去等におきまして、予算の効率的な執行に留意し、また支出の削減に努めてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○三日月広域連合長 ただいま説明のあったとおりでございますが、空調等費用の追加等が発生いたしましたので増額をしていきたい。ただ、過年度の執行残と今年度の予算執行の経費節減分を充当する。また、いざという時のために予備費を積んでおこうということで、来年度その措置をするということでございますが、何か御意見や御質問ございますでしょうか。

それでは、この内容については確認をさせていただいたということにいたします。

続いて、せっかくの機会ですので、先般は各府県のパビリオンの状況、また万博に向けた取組等を御紹介いただきましたが、今日は大阪ヘルスケアパビリオンをはじめ、各政令市の皆さんの取組状況について少し御紹介していただく機会を設けたいと思います。

それぞれ資料の順に御報告をお願いいたします。まず大阪府さん、よろしくお願いいたします。

○渡邊副委員 お時間をいただきまして、ありがとうございます。

大阪府、大阪市は関西パビリオンの話にはいつも入ってないんですけども、地元開催地ということで、その隣で大阪ヘルスケアパビリオンという形で産学官民によるオール大阪の知恵とアイデアを結集させたパビリオン出展をしております。その内容を今日御紹介させていただければと思います。

訪れた方々が命や健康、近未来の暮らしを感じられる展示を実現するということとともに、大阪というまちの活力・魅力を世界のより多くの人々に伝えていき、誰もがわくわくしながら、驚き、新たな発見に満ちた感動が味わえる体験や共創を通じて深く心に記憶され、新たな行動につながるようなパビリオンを目指すという形でつくっております。

それでは、別紙2を御覧いただければと思います。

出展のテーマは「『人』は生まれ変わる」「新たな一步を踏み出す」ということで、「REBORN」ということにしております。また、一過性のイベントに終わらせることなく、ハード・ソフトの両面でレガシーを残していこうということで、この2050年の大阪の都市生活を展示のストーリーという形にしております。万博を、大阪の成長、経済発展や、いのち輝く幸せな暮らしにつなげていければということで考えております。

パビリオンのテーマが、2050年の都市生活を展示ストーリーとしておりまして、未来のヘルスケアですとか食文化・エンターテインメントを体験できる展示ということで準備を進めているところです。

このメインルートとしまして、この「REBORN」の体験ルートということで、このルートをたどっていただくという形にしております。来館者はまずこの左、「カラダ測定ポッド」としてありますけれども、まずこちらで目とか髪ですとか心血

管などの7つの項目を測定いたします。その後、「ミライのライド」、右のほうにありますけれども、エレベーターに乗っていただいて、未来の大阪のまちを映像体験しながら、2階へ移動をしていただきます。そして、そこで「ミライのじぶん」とありますが、測定データを基にしましてアバターの形で、未来の自分、25年後の自分に出会える体験をします。そしてその下、「ミライのヘルスケア」ゾーンにおきましては、一人一人にパーソナライズされたフードの提供ですとか、ヘルスケアに関する様々な体験をしていただくという形にしております。こちらの方、協賛企業さんでいろんなコンテンツが用意されるという形です。

1階にまた戻っていただきまして、医療をはじめとしまして様々な観点から未来の都市生活を感じられる「ミライの都市」というゾーンを体験していただくという形になります。

次のページを御覧いただきまして、絵はないんですけども、この「REBORN」体験の中でフィナーレとしまして、これまでの展示の体験で生まれ変わった、こういうヘルスケアをしていきますと、先ほどの最初の未来の自分とこう変わりますよという自分のアバターがちょっと変わった形で体験できるという形になっております。

2ページ目、続きましてアトリウムの中の展示コンテンツになりますけれども、リボーン体験ルート以外にも展示がございまして、その「REBORNチャレンジ」としてありますけれども、441社の中小企業スタートアップが、万博会期中の26週間にわたりまして、持っています優れた技術ですとかサービスを展示する展示出展ゾーンがございまして、その隣「iPS Cells for the Future」とありますけれども、iPS細胞により自ら動く心筋シートそのものですとか、心筋シートをシンボリックに紹介する生きた心臓モデルを展示しております。さらには、その右側、未来の人間洗濯機も出すということで計画をしております。

また館内の最後になりますけれども、「ミライの食と文化のゾーン」という形で、デモキッチンエリアでは調理実演などの各種イベントの開催があります。また、フ

ードコートのような形で、協賛企業によります飲食ブースも用意をしております。そのほか、大阪産（おおさかもん）などの物販も予定をしております。

パビリオンの外側にも展示がございまして、その下、「ミライのエンターテインメント」というところで「XD HALL」としてはいますが、こちらのほうは圧倒的な没入感を来館者に提供し、未来のエンターテインメント体験をしていただく施設ということにしております。これはモンスターハンターのシリーズを活用しました「モンスターハンターブリッジ」の上演を行うということになってます。

また、右上を見ていただきまして、「循環型生産システム」ということで「アクアポニックス」の展示を行います。これは丸い球と、球と真下に水槽があるという形になっているんですけども、この下の水槽には、魚が養殖されておまして、上のほうの球の部分には野菜の水耕栽培のトレイが設置されているという形です。魚のふんなどが分解されますと水槽の水が汚れるわけですけども、これが上の水耕栽培の植物にとっては栄養分となると。そこで、養殖の水槽と水耕栽培の間でこの水を循環することで、超節水型の循環サイクルを形成するというものになります。結構大きいものでインパクトもありますので、子どもさんたちにも興味を持っていただけるんじゃないかと思っております。

以上で、簡単ではございますけども大阪パビリオンの展示ですけども、実は昨日ですね、このパビリオンの協賛企業によります展示コンテンツのメディア発表会を開催しておりまして、万博全体の盛り上げにもつなげていきますよう、今後も協賛企業や協力機関などと一緒に展示コンテンツを次々に発表していきたいというふうに考えておりますので、どうぞ御期待いただければと思います。

現地レベルでは関西パビリオンと協力して進めておりますので、これからも御協力よろしくお願いいたします。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。かなり盛りだくさんな内容で、楽しみにしたいと思います。

続いて京都市さん、どうぞ。

○結城総合企画局長（京都市） 京都市における大阪・関西万博に向けた会場内外の取組について御紹介させていただきます。

京都市におきましては、京都府、京都市、経済界などオール京都で大阪・関西万博きょうと推進委員会を設置して、様々なアクションに取り組んでいるところですが、本日はその中から、会場内で実施する取組3点と、万博を契機として取り組む京都市独自の取組1点を御紹介させていただきます。

まず、万博会場での取組として、1点目は、EXPOホール（シャインハット）で開催いたします「EXPO KYOTO MEETING～和のこころと地球の未来～」です。こちらは京都市が中心となり、来年の4月23日に開催するものです。和のこころと地球の未来をテーマに国内外のスピーカーによるトークセッションのほか、京都の伝統芸能をはじめ、様々なステージパフォーマンスを企画しているところです。

2点目は、2025年日本国際博覧会ベストプラクティスに選定された「ごみゼロ共創ネットワーク」による取組の展示・活動発表です。京都発のごみ削減のためのプラットフォーム整備、また清掃活動支援アプリ開発など、多種多様なごみ問題の自分ゴト化を世界に広めていく取組を紹介するものです。また、日程・会場は未定ですが、ネットワークのこれまでの取組内容や今後の展望について発表を行う機会が設けられる予定です。

3点目は、京都物産出品協会のショップ「おこしやす 京の小路」の出展です。万博期間中、京の食と工芸の名店12社が週替わりで販売ブースを展開するとともに、観光情報も発信して、万博会場から京都への誘客を図るものです。また、開幕までに産学公連携により、京都ならではのおもてなしのできる販売員の人材育成、新商品開発も行っていまいります。

次に、万博と連動した京都市独自の取組である「Tech Tour Kyoto」を御紹介いたします。大阪・関西万博を契機としまして、京都企業の視察あるい

はスタートアップ・大学研究者との交流、インキュベーション施設の見学などのテクニカルツアーを実施するものです。万博開催中は、各国のパビリオン関係者やビジネス関係者など多くの方がお越しになります。この機会にあわせてツアーが実施できるよう、今年度はツアーの相談窓口を開設いたしました。また、ジェトロ京都など関係機関等との連携体制の整備、視察受入先の発掘、ファムトリップ等を今年度行っているところです。万博開催後も戦略的に海外とのビジネス交流を推進し、京都企業の海外展開、京都への企業誘致・投資拡大を図ってまいります。

京都市からの説明は以上です。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。こちらもならではの楽しみです。

続いて、堺市さんお願いします。

○永藤委員 堺市では、堺商工会議所をはじめ、市内の経済・観光団体との2025年大阪・関西万博堺プロジェクトチームの協議等を通して、万博会場での効果的な発信と万博の波及効果を堺市内に呼び込むことができるように準備を進めております。

今画面に出ている資料ですが、まず万博会場で予定している内容です。

府内の自治体が連携して実施する「大阪ウィーク」や「大阪ヘルスケアパビリオンステージ」での機会を活用しまして、計10日間ほど催事を実施する予定にしています。大阪ウィークでは、大阪43市町村の祭典としまして、万博会場に一番近い世界遺産であります百舌鳥・古市古墳群の紹介や、堺が誇る祭りであるだんじり、ふとん太鼓の展示、市内企業の技術体験などを実施します。また、堺市主催の催事では、茶の湯を大成した千利休が生まれた堺として、現代の日本人の精神性や美意識にもつながる茶の湯の体験、そして独特の歴史を歩む中で培われた伝統や文化、産業など、堺や日本の魅力も存分に感じていただきたいと考えています。

続きまして、現在の取組状況です。

今年度は、J R グループや関西の私鉄、大阪府内自治体等との大阪デスティネーションキャンペーン、プレキャンペーンの実施や、関空や新大阪駅等での動画発信、

ファムトリップの実施など、旅行事業者や個人旅行者に向けたプロモーションを強化しています。万博に合わせて、市内にてパークアンドライド駐車場の設置や、万博会場と堺のベイエリアにあります堺旧港を結ぶ海上交通、そして直接シャトルバスの運行も予定されていますので、万博会場や関空とのアクセスのよさを最大限に生かして誘客をしたいと考えています。

また左下ですが、次の時代の堺を担う子どもたち、日本の未来を担う子どもたちの、国際感覚を醸成したり視野を広げるなど可能性を伸ばすことにつなげられるように、市内の小中学生を万博会場に無料招待いたします。そして、関西に構える総領事館やJICA関西と連携して、小中学校での万博特別授業も実施をしております。今年度は8か国に御協力をいただいておりますので、万博の期間中も実施をしたいと思っています。

関西パビリオンとの連携など、構成府県市と力を合わせて万博の成長とそして関西が盛り上がるように取り組みたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。

最後になりましたけれども、神戸市さんお願いします。

○小原副委員 ありがとうございます。

資料の9ページ、神戸市におきましても、商工会議所、地元企業と連携を図って万博の取組を進めていきたいと思っておりますが、資料で3つの項目にまとめております。

①万博会場内の催事でございますが、震災からの復興、未来に向けて変わる神戸の魅力を発信することを目的に、商工会議所等と力を合わせて神戸のいま・みらいを感じてもらう取組を進めたいと思っております。「いま・みらい」でございますので、やはり子どもたちに見ていただきたいということで、8月1日から3日間、夏休み期間中3日間に開催する予定としているところでございます。

それから右側に行きまして、②神戸から夢洲間の海上輸送についてでございますが、今回の国際博覧会の会場というのは初めて四方を海で囲まれたエリアということでございますので、神戸と夢洲を結ぶ海上輸送を不定期航路ですけれども検討を進めているところでございます。

それから、③市内での機運醸成でございますが、既に「B E K O B E」等のライトアップ、またはビルのラッピング、カウントダウンボードの制作などを行っておりますし、今後市バスのラッピング等を行いまして、市内での万博盛り上げを行っていきたいと考えておるところでございます。

以上です。

○三日月広域連合長 阪神・淡路大震災から30年ですので、こちらもならではの企画やイベント等を予定されているということでございます。

今、御紹介いただいた事々を含めて、何か皆様方のほうで御意見、御質問等ございますか。

それでしたら、それぞれ府県市において関西パビリオンの準備ともども、それぞれの市域での機運の盛り上げ、また様々な企画の準備と一緒に進めていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

三重県さん、福井県さん、よろしいですか。

それでは、以上でこの議題を終了させていただきます。ここで、福井県さん、三重県さんは御退席されます。

協議事項に入ります。

「令和7年度当初予算（案）について」を議題といたします。まず、本部事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局 資料2をお願いいたします。

令和7年度の当初予算案でございますが、9月の連合委員会におきまして協議いただきました予算編成方針に基づきまして、選択と集中ということで予算を編成して

おります。

表のほうを御説明させていただきますが、歳入歳出とも合計額は38億1,145万5,000円となっておりまして、対前年度比でございますが、8億2,922万4,000円の減少でございます。比率といたしまして、17.9%の減少となっております。

減少の内訳でございますが、表の下のほうにございます増減額の欄を御覧いただきたいと思っております。関西パビリオンの設置運営に係るものが約7億7,300万円、広域観光・文化・スポーツ振興費に係るものが約1億5,400万円となっております。主な要因でございますが、関西パビリオンの建築工事が完了することによってでございます。

各構成府県市に御負担をいただきます負担金につきましては、歳入の欄を御覧いただきます。上の表でございますが、一番上にございます総額で19億2,202万9,000円となっております。前年度より2億359万4,000円の減少となっております。

続きまして、2ページをお願いいたします。

予算のシーリング状況を整理した表となっております。令和7年度予算につきましては、予算編成方針ということで先ほども御案内をいたしましたけれども、こちらにつきまして表の下の方に記載をしてございます①から⑩の経費、これにつきましてはシーリング対象を除いていくということになってございますので、こちらを除いて令和6年度の当初予算額を上限とするよう編成をさせていただいております。

この状況を整理したものが、こちらの表となっております。令和6年度の当初予算、(A)の欄から(B)の欄のシーリング対象額、経費を引いた(C)の欄でございます。こちらが6年度のシーリング対象経費となっております。同様に、7年度につきましては、DからEを除きましたFにつきましてシーリング対象経費ということで、CとFを比較いたしました表に仕立ててございまして、シーリング対象の負担金の増加額、 $F - C$ 、Iの欄を御覧いただきたいんですけれども、こちらが負担金の増加額となっております。全ての分野におきまして、また本部事務局につきましてもIの欄がマイナスまたはゼロとなっております。予算編成方針の目標を、全ての分野、

本部事務局においてもクリアしているということで御報告をさせていただきます。

続きまして3ページでございますが、こちらは施策体系別の総括表となっております。最下段、総計のところでございますが、先ほど御説明を申し上げましたが、概要の表と同額ということになってございます。令和6年度と7年度の当初予算比較でございますが、約8億2,000万円余の減少ということになってございます。行の一番右、財源の内訳でございますが、一般財源につきましては、19億2,202万9,000円となっております。

次のページ以降4ページから8ページまでは施策体系別の各内訳をお示ししております。

9ページ以降でございますが、広域防災から始まりまして各分野の主な事業を記載させていただいております。細かくなりますので、こちらの説明は省略をさせていただきたいと存じます。

予算につきまして、本日御承認をいただけたら、年明け1月10日の広域連合議会の総務常任委員会にて御説明をさせていただき、3月1日開催の連合議会に議案として御提案をさせていただき、議決を求めてまいりたいと考えております。

御説明につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

○三日月広域連合長 この間、分野ごとに協議調整をしてまいりました来年度の予算案につきまして、予算総額38億1,000万円余、今年度と比べますと、8億3,000万円余り減。大きくは、関西パビリオンの設置工事が完了したことによる減少ということでございます。奈良県の全部参加が実現しましたので、広域連携による行財政改革の推進を新たにつくりまして、来年度から開始させていきたい、また必要な経費を新たに予算化したということでございます。

個別の内容の紹介は資料を御参照いただきたいと思いますと思いますが、何か皆様方、御意見、御質問等ございますでしょうか。

ないようでしたら、この内容を来年3月の広域連合議会の定例会に提案させてい

ただくことといたします。なお、詳細な準備を今後進めていきますので、よろしく御協力をお願いいたします。

それでしたら次の議題、「関西広域連合規約の変更（案）について」を議題といたします。この件は、関西広域連合の体制強化を図っていくために、副広域連合長を3名以内に増強することについてお諮りをするものです。これを実現するためには関西広域連合規約の変更をしなければなりませんので、その内容を御確認いただきたいと思います。本部事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局　はい、御説明をさせていただきます。

資料3をお願い申し上げます。広域連合の体制強化につきまして、御説明を申し上げます。

体制強化といたしまして、副広域連合長を1人から3人とする規約の変更案でございます。御協議をさせていただきます。

1の変更の理由でございますが、大阪・関西万博の開催を契機といたしまして、関西の更なる飛躍への期待が高まる中、関西広域連合は設立から15年目を迎えるということで、万博のレガシーの創出、継承によります関西の各圏域内、地域の発展、広域防災をはじめとする広域事務を担う力、府県と政令市が協働する力の向上を目指しまして体制の強化を図るということで、必要な規約の変更を行うものでございます。

2の変更の概要でございますが、（1）から（3）の変更となっております。

1点目の変更でございますが、副広域連合長の定数の変更でございます。現行の「1人」を「3人以内」と変更をいたします。2点目でございますが、広域連合長に事故があるとき等の副広域連合長による職務代理に関する規定の変更となっております。副広域連合長を複数設置とする場合の職務代理の順序をあらかじめ定める規定を追加いたします。3点目でございますが、広域連合委員会の副委員長に充てられる副広域連合長に関する規定の変更でございます。副広域連合長を複数設置する場合の規定を追記させていただくものでございます。

この概要に基づきまして、3のところでございますが、四角囲いのところに規約の第12条、第15条の変更という形で案をお示しさせていただいております。太ゴシック、アンダーラインのところが、変更させていただく形の案となっております。

4の施行日でございますが、総務大臣の許可のあった日という形にさせていただきます。

2ページでございますが、スケジュールの案でございます。こちらにつきましては、本日御協議を申し上げた後、御承認いただきましたら各構成府県市の議会に議案として御提出をいただき、議決をいただきました後、総務省に規約の変更許可申請を行いまして、許可後に新規約の施行という形になっております。

御説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

○三日月広域連合長 この内容について、何か御意見、御質問ございますか。

御異論がないようでしたら、この内容で成案とし、連合議会にもお諮りすると同時に、規約改正は構成府県市議会全てでの議決が必要になりますので、それぞれの府県市議会に向けた議案の作成並びに提出準備に入りたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、報告事項に入ります。

「関西健康・医療創生会議シンポジウムの開催について」、こちらはイノベーション推進担当から御説明をお願いいたします。

○イノベーション推進担当 資料4をお願いいたします。

関西広域連合の顧問でもあります井村京都大学元総長を議長といたします、関西健康・医療創生会議シンポジウム開催のご案内でございます。

人口減少が到来するのは必須となりますが、今後30から40年という中長期的視点に立ちまして、希望を持ってこれからの時代へ向き合う方法をともに考えるシンポジウムでございます。日程は来年1月22日の水曜日、場所はグランキューブ大阪で関西広域連合は共催となります。

プログラムは、特別講演、基調講演、パネルディスカッションの構成で、特別講演は京都大学前総長の山極壽一総合地球環境学研究所所長から「エコロジカル視点から40年後の関西を考える」として、基調講演はお二人、広井京都大学人と社会の未来研究院副院長・教授、さらに三日月広域連合長にオンラインで御登壇いただきます。広井教授には、「人口減少社会のデザイン」として活力ある地域社会を実現するには若い世代への支援が政策的に有効といったことなどを、また三日月広域連合長からは「人口減少社会の諸相と広域連携の重要性」を御講演いただきます。パネルディスカッションは、御講演いただきます3名の方に「人口減少をチャンスに変えるには」をお題に討論いただきます。無料でどなたでも御参加可能となっております。人口減少という現実を希望へと転じるための知見とヒントを得られる貴重な機会と考えております。PRの御協力と各府県からの奮っての御参加、何とぞよろしくお願いいたします。

○三日月広域連合長　私も頑張って準備したいと思います。この内容で進めますので、PR、御参加、よろしくお願いいたします。

続いて、「令和6年地方分権改革に関する提案募集に係る国の対応方針（案）について」、こちらも事務局からまず御説明をお願いいたします。

○本部事務局　資料5を御覧ください。

令和6年地方分権改革に関する提案募集につきましては、11月14日に開催されました内閣府の地方分権改革有識者会議・提案募集検討専門部会の合同会議におきまして、提案事項に係る対応方針案が示されましたので、御報告いたします。

1、対応状況でございますが、表に記載のとおり、「提案の趣旨を踏まえ対応」とされたものは関西広域連合単独提案の3件、それから構成団体と共同提案をいたしました13件となりました。

次のページ、別紙を御覧ください。

1の関西広域連合提案につきまして、簡単に御説明申し上げます。提案事項の枠

の①及び②につきましては、受験申込手続をデジタル化し、紙の証明書の提出を不要とする提案を実施しましたところ、いずれもデジタル化せず、書類の提出自体を不要とする国の対応案が示されたものです。また、③につきましては、現在 B 5 に指定されております様式につきまして、今年度中に省令を改正し、大きさの指定を廃止するというものです。

2 の関西広域連合と構成団体との共同提案につきましては、後ほど御覧いただけたらと思います。

最終 6 ページのほうを御覧ください。

下段のほう、（参考）としております表ですが、昨年度提案いたしまして国において結論を持ち越されていまして広域連合の 2 件の提案につきまして、今年度中に省令を改正し、添付書類を不要とする方針が今回示されたものです。

1 ページ目にお戻りください。

2 の今後のスケジュールでございますが、12 月中に開かれます閣議で正式に決定される予定でございます。

報告は以上になります。

○三日月広域連合長 こちらも具体的な提案をしながら改善、改正につなげていくという内容でございますので、御確認をいただければと思います。

それでは最後になりますが、「令和 6 年度関西広域連合協議会の大学生等との意見交換会」を開催いたしました。その結果等、事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局 資料 6 を御覧ください。

若者世代の意見を関西広域連合の政策に生かすことを目的に、表題の意見交換会を11月23日土曜日、奈良市内で開催いたしました。

今回、「関西全体の持続的な発展の実現」をテーマに政策提案を募集いたしましたところ、9 大学16チームから応募がございまして、政策提案レポートによる事前の書類審査を経まして、6 大学 9 チームが意見交換会に参加しました。当日は、学生チ

ームから発表された提案に対しまして、審査員や構成団体、若手職員との間で意見交換が実施されました。

次のページの別紙を御覧ください。

一番上から最優秀賞、優秀賞と記載がございますが、奈良県立大学MURAJIOによる政策提案「つながるキャンパス、広がる未来～広域大学連携による良質な学びと充実した大学生活の提供～」が最優秀賞に選ばれました。こちらでは関西の大学が連携し、単位互換制度の開講数の増加等に取り組むことで、大学教育の質を高めるとともに、若者の大学生活の満足度向上や若者の関西圏からの進学流出抑制及び外部からの流入につなげるという内容でございました。以下、優秀賞が2チーム、特別賞1チームを選出しております。

1 ページ目にお戻りください。

内容の説明になりますが、当日は政策提案発表、意見交換に加えまして、5の（2）にございますとおり、大学生等と構成団体若手職員が、学生の政策提案や自治体の施策等について意見交換を行いましたほか、その下、（3）の交流会では、学生と審査員、若手職員、そして関西広域連合本部事務局職員による意見交換が行われまして、さらに学生はそれぞれの参加チームの枠を越えて交流が行われました。

報告は以上になります。

○三日月広域連合長 当日、御準備、御参加いただいた山下委員、何か補足、御紹介ございますか。

○山下委員 はい。初めて私も審査員として参加させていただいたんですけれども、非常に各チームの発表も熱心で、かつ内容も非常にレベルが高かったと思っております。そして、ここに出て発表をして、賞を取るということを目指に、ゼミの先生と学生さんが長期間準備をしたということで、非常に学生さんにとっていい機会になったとともに、我々からしても参考になるような提案が幾つもありましたので、これはぜひ来年度以降も続けてほしいなと思っております。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。山下委員からの相当厳しい御質問にも、学生がバンバン答えていると。かなり細かい質問をギリギリされてましたけれども、すごく前向きな提案、そして今言っていたように、当日は9チームでしたけれども予選で、書類審査でたくさんの大学チームが応募してくれてますし、この発表に向けて相当準備をして本番に臨んで、今、最優秀として御紹介いただいた「つながるキャンパス、広がる未来」という奈良県立大学のこの内容については、府県市の公立大学からまず何かつながる取組をしてみないかということでしたので、これについては既存の制度や仕組みもあるでしょうけれども、ぜひこの関西広域連合でもテーマとして扱って、どういうことができるのかという検討を始めていきたいと思いますので、この点は広域連携による行財政改革を担当される奈良県さんのほうで、ぜひ素材をつくっていただきますようによろしく願いをいたします。何かございますか。

ないようでしたら、この点も御確認いただいたということで、また来年度開催に向けても、準備をしていきたいと思います。

以上で、予定した議題は全て終了となりますが、何か全体を通じて、皆様方のほうで御発言等ございますでしょうか。

まず大阪府さんからどうぞ。

○渡邊副委員 それでは、大阪府のほうから、この関西広域連合でも大変後押しをいただいております万博期間中の大阪におけるライドシェアの緩和に向けました提言など緊急要望を行っていただいておりますけれども、こちらにつきましては一定の結論を得られましたので、この場をお借りして御報告をさせていただければと思います。

三日月広域連合長をはじめ、各府県知事や各市長の皆様におかれましては、5月の緊急要望をはじめといたしまして、6月と11月の定例の要望におきましてもこの後押しをいただきまして、大変ありがとうございました。感謝を申し上げます。そのおかげもございまして、8月から、国土交通省と大阪府、大阪市との間で勉強会という

形で検討を始めることができまして、12月19日、万博開催期間を含めました2025年4月から10月の間、現行の「日本版ライドシェア」の緩和につきまして、結論を得たということになります。

内容といたしましては、大阪府全域で24時間稼働を可能な状態とすること、12月以降でできるだけ早い時期に試行実施を行うこと、それから需給状況をモニタリングしながら必要な台数等を検討し随時見直しを行うことという形で、国と合意をすることができました。

今、この試行実施が可能ですので、準備が整い次第これが開始できますよう、今現在手続を進めているところでございます。

ここまで進めてこられましたのも、皆様の御協力があつてこそだと考えております。本当にどうもありがとうございました。

万博への来訪者の皆様の移動の足をしっかり確保して不便をかけないように、この万博開幕、万全の体制で迎えて、万博の成功につなげていきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

以上です。どうもありがとうございました。

○三日月広域連合長 ありがとうございました。この間、大阪府市さんの御尽力や、またみんなの理解、協力もあつて、この万博開催期間中の「日本版ライドシェア」、大阪府域全体で24時間可能になるということでございますので、試行を含めた準備が大変だと思っておりますので、ぜひしっかり進めていただくと同時に、この結果が全体の移動を改善していくことにつながると思っておりますので、共有をしていただければと思います。

最後に一点ですね、防災庁創設に関し、今、石破政権において専門の大臣を置いて積極的に進められておりますので、関西広域連合としてもこの間、阪神・淡路大震災をはじめ、様々な震災を乗り越えてきた、また、東日本大震災を含め、カウンターパートで率先して支援をしてきたという実績もございますし、何よりこの防災庁創設

に向けた研究会を関西広域連合で行い、専門家の先生方から一定の御提言をいただいておりますので、そういったものをベースとしてできるだけ早く国にも要望をさせていただきたいと思っております。年明け以降、日程等が固まりましたら、皆様方とも共有をさせていただきたいと思います。

防災担当の兵庫県知事、何かございますか。

○齋藤委員 ありがとうございます。防災庁の設置については、今、石破政権で準備室が立ち上げられたということです。来年は阪神・淡路大震災から30年の節目の年ですので、やはり防災対策をしっかりとやっていく意味でも、ぜひ前向きな議論を政権におかれてもしていただきたいと思っています。

一方で、関西広域連合においても関西防災・減災プランの今改訂のときでございますので、そういった意味で防災庁の設置についてしっかり要望していくということが大事だと思います。

来年度の予算においても広域防災費は2,200万円余ということで、対前年で150万円ほど増となっております。そこで大きなポイントは、防災庁の啓発事業について200万円ほど新たに大幅に計上させていただいておりますので、そういった意味でも関西広域連合から、防災庁の設置をしっかりと兵庫県も汗をかかせていただきますので、防災庁の設置の要望をしっかりとやっていくということが大事だと思いますので、よろしくお願いします。

○三日月広域連合長 この内容は、既に皆様方とも一定議論していますが、事前防災から復興まで総合的な施策ができるような体制づくりということでもありますとか、特に装備品の関係で、これについて、国の装備品拡充、そして地方への配備ということでもありますとか、能登震災でも教訓としてありました基礎自治体が壊滅的な打撃を受けた場合の広域自治体もしくは国の役割ということでもありますとか、何より拠点を関西に設置すべきであるというようなことについても、内容とする方向で検討をし、まとめていきたいと思っておりますので、ぜひ皆様方、それぞれ御協力をよろしくお願いい

たします。この内容、何かございますか。

それでは、以上で第173回関西広域連合委員会を閉じたいと思います。ありがとうございました。

○本部事務局　それでは、引き続きまして、記者会見に移らせていただきます。質問をお受けいたしますので、私が指名いたしましたら、御所属とお名前をおっしゃってから御質問をお願いしたいと思います。

○神戸新聞　神戸新聞の岩崎と申します。

大阪・関西万博のことですけれども、関西パビリオンのほうは建物が完成しまして、これから展示準備等進むと思うんですけれども、開幕まであと4か月というところで、このスケジュール感の中で今後、その機運醸成であるとか、どのような取組に力を入れていきたいとか、もしくは課題としてこんなことを感じていることが広域連合としてありましたら教えていただけますでしょうか。

○三日月広域連合長　開幕まで113日ということで迫ってきました。先ほど政令市の取組、紹介をしていただきましたけれども、それぞれの市または府県、今、準備を進めておりますので、それぞれの企画を、会場でどんなことをする、そしてそれぞれの府県市域でどんなことをする、また万博に絡めてこういうことを考えているということを、それぞれ発信しながら機運を高めてまいりたいと思います。

また、関西パビリオンの準備も進んできましたので、その内容、大阪ヘルスケアパビリオンとともに御紹介しながら、様々な御参加をいただけるような環境づくりをしていきたいと思います。

年が明けたら、いよいよもう一気に万博モードになると思いますので、みんなで力を合わせて頑張ってまいりたいと思います。

○本部事務局　ほかいかがでしょうか。

○NHK　NHKの高橋といいます。

最後、防災庁のお話がありましたけれども、防災庁の体制とか予算づくりのお話と、

あと極端な話、明日あさってに災害が起きたときに、国として防災、今は防災庁がないわけですけど、何をするのかっていうその実務の話と両面で進んでいると認識しているんですけども、広域連合としてこの部分、今、国の議論でちょっと網羅的に議論されてるけど足りないなとか、特にここを優先的に要望していこうというふうに考えておられる点があれば、もう少し詳しくお聞きしたいと。

○三日月広域連合長　まず、今日もしくは明日起こるかもしれない災害に対しては、現在の体制で万全を期すということになりますが、この間、起こった災害に対応してきた経験、教訓を踏まえて、さらにどういう体制が必要なのかということについて国でも検討されてますし、関西広域連合では早くから専門家も交えて検討、研究してきた経過がございますので、大きく3点ですね。1つは、事前防災から復興まで総合的な施策が推進できる体制づくりということ。2つ目として、やはり国と関西広域連合をはじめとする地方が一緒につくっていくということですね。その中においては、先ほども一部申し上げましたが、装備品をしっかりと国において確保し、そして地方に配備するということでもありますとか、能登震災で教訓となった基礎自治体が非常に大きな深い打撃を受けた場合に広域自治体がどのようにそれを補完していくのか、支援していくのかということの体制づくり、さらにはバックアップということからすると、東京だけで指揮命令するのではなくて、やはり地方に、とりわけ、一日の長のある経験もしてきた関西に、その拠点をつくるべきではないか。こういったことも併せて提言、要望しながら、よりよい防災庁設置に向けた議論を行っていきたいと考えているところでございます。

○本部事務局　ほかいかがでしょうか。

では、これで記者会見を終了いたします。どうもありがとうございました。

○三日月広域連合長　どうもお疲れさまでした。

閉会　16時56分